



平成 30 年 5 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社 翻 訳 セ ン タ ー
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 東 郁 男
(コード：2483 JASDAQ スタンダード)
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 統 括 中 本 宏
(TEL. 06-6282-5013)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社グループは、2019年3月期から2021年3月期までの3ヵ年における当社グループの中期経営計画を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 中期経営計画策定の背景

当社グループは、2018年3月期を最終年度とする先の中期計画では「すべての企業を世界につなぐ 言葉のコンシェルジュ」という経営ビジョンのもと、翻訳事業の専門性の高度化やグループ内の営業連携強化等の施策を遂行してまいりました。また、ISMS や翻訳国際規格 ISO17100 の認証を取得するなど、品質管理や情報管理の体制を整備してまいりました。なお、ICT 活用による業務改善の対応には遅れが生じており、2019年以降に取り組みを継続することとなりました。

その結果、当初設定した2018年3月期連結数値目標「売上高110億円、営業利益7億50百万円、当期純利益4億50百万円」に対して、「売上高106億18百万円、営業利益8億2百万円、当期純利益5億66百万円」となり、売上高は未達となったものの、利益は目標を上回りました。

企業のグローバル展開が加速し、外国語ニーズの拡大が見込まれる中、第三次中期経営計画の成果と課題を踏まえ、この度、2019年3月期から2021年3月期までの3ヵ年における中期経営計画を策定いたしました。

2. 中期経営計画の基本方針

経営ビジョン「すべての企業を世界につなぐ 言葉のコンシェルジュ」は継続し、以下に示す基本方針・重点施策の遂行により、顧客ニーズの多様化・高度化に対応した課題解決型の高付加価値企業となることを目指します。

【基本方針】

当社グループは、日本を代表する言語サービスのコンサルティング企業を目指し、最新のテクノロジーを活用したソリューションビジネスへの転換を図り、翻訳事業の高付加価値化を実現します。

3. 中期経営計画の重点施策

中期経営計画期間における重点施策は次の3点です。

(1) ソリューション提案力の強化

- 専門特化サービスの集合体としての強み・価値の訴求
- 各種ツール・ソフトウェアを活用した翻訳業務の効率化の提案

企業のグローバル展開が加速する環境において、お客様によりご満足いただけるサービスを提供するため、専門特化サービスの集合体としての強み・価値を訴求しながら、各種ツール・ソフトウェアを活用した翻訳業務の効率化を提案してまいります。

(2) 言語資産の活用

- 中長期的な競争力を支える言語資産の蓄積と運用のための環境整備
- 翻訳作業工程のIT化による品質の安定と生産効率の向上

翻訳文の品質安定と生産効率の向上を図るため、翻訳支援ツールや機械翻訳を積極的に活用し、言語資産を効果的に運用する環境を整備します。

(3) 経営基盤の整備

- 業務プロセスの標準化と自動化による生産性の向上
- 環境の変化に対応するための人材育成と組織機構の最適化

ICTを活用しながら業務プロセスの標準化と自動化を推し進め、引き続き社内業務の効率化に取り組んでまいります。また、ツール・ソフトウェアを効果的に活用するため、人材の育成と組織機構の最適化を図ります。

4. 連結業績目標

	2018年3月期 実績		2021年3月期 予想
売上高	10,618 百万円		13,600 百万円
営業利益	802 百万円		1,300 百万円
当期純利益	566 百万円		850 百万円

経営指標	営業利益率	10%
	自己資本利益率 (ROE)	15%以上

(注) 上記に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、予想数値と異なる可能性があります。

以 上